

## 第64回JIAアーバントリップ見学会の報告

実施日 : 2010年9月6日 (月)

テーマ : 「更新が続く学校施設の新動向を見る」

### 見学趣旨 :

少子化が進む我が国の教育環境では、魅力ある教育施設としての学校施設整備が盛んに行われ続けています。施設をリニューアルするだけでなく、独自の教育理念に基づく施設計画を積極的に表す学校もあります。また、特徴ある施設を造り、独自のカリキュラムを魅力として表す学校もあります。

今回は、3つの学校の施設を見学し、その施設を造った背景を探るとともに、設計者がそれにどのような回答をしたかを、探ってゆきたいと思います。

### 見学先:

1. 「相模女子大学」 マーガレット本館、マーガレットホール、体育館、他

設計&説明者 : 浅石 優

(日本設計・東京都市大学都市生活学部都市生活学科教授)

2. 「神奈川工科大学」 KAIT工房

設計 : 石上 純也 (石上純也建築設計事務所)

説明者 : 板野 直己 (KAIT工房マネージャー)

3. 「七沢希望の丘初等学校」

設計&説明者 : 中村 勉 (中村勉総合計画事務所)

第64回コーディネーター 大川 直治 (大川建築都市設計研究所)



「相模女子大」 マーガレット本館



体育館



「神奈川工科大学」 KAIT 工房



内部



「七沢希望の丘初等学校」 内部



外観

「更新が続く学校施設の新動向を見る」に参加しました

■まずは一つ目の見学先、「相模女子大学」。設計者の案内で見学スタート。クロマツの林などの借景を生かしたキャンパス構内を実際に見て回ります。マーガレット本館はキャンパス内外を隔てるように配置されているものの、明るい内部空間を視線が通り抜けることができ、建物自体が薄いカーテンのような印象。設備類も天井ボイドスラブにコンパクトに収納されていてスッキリとしていました。別棟の体育館はステンレス鋼板の外壁に包まれ、周囲の景色が写りこんだ斬新な意匠が印象的。大学の顔となるマーガレットホールはレストランのような明るく華やかな空間演出。マウンド上の芝生やビオトープによって自然の生態系を再現するなど、女子大らしい穏やかな景色を眺めながら食事を楽しむことができる。研究や発表に打ち込む大学生にとって、精神的にも癒しとなるような工夫が随所に見られ、施設群と環境が一体となって学生をサポートしていると感じました。

■2つ目の見学先は「神奈川工科大学KAIT工房」若手建築家の設計による、全面ガラス張りの軽やかな外観で、今回の見学で特に期待していた施設。訪れてみると細い板状の柱が木立のようにランダムに配置されていて、いつの間にか施設内部に引き込まれてしまいます。内部外部ともに白一色で、工学系大学の工作室といった既成概念が大きく覆されるようなさわやかな空間。部屋割りに縛られず、学生が自由に居場所を見つけて作業ができるといったコンセプトが印象的です。雨が滝のようにガラス面を流れ落ちるなど、天候の変化を内部環境に取り込む工夫がされていました。これまでのモダニズム建築で定説化していたグリッド構成や機械的なゾーニングから脱し、今後の現代建築の新しい方向性を模索しようとする設計者の意思を感じました。

■3つ目の見学先は「七沢希望の丘初等学校」東丹沢の麓でバスを下車し徒歩でアプローチすると、木造のやさしい表情の建物が見えてきます。施設内は自然から直接とりいれた外気や光であふれ、森林浴のような心地よい空間。機械・電気設備の考え方は徹底的に都市機能からの自立を目指して設計されており、日本の今後の課題である環境配慮について身をもって体現している建築といった印象です。学長により直接伺った施設のコンセプトも明確で、日本の未来をつくっていく子供の自立性を育てたいとおっしゃっていました。見学当初、やわらかく感じられた木造の建物は見学後には、里山の周辺環境に対してしっかりと主張のある建物に感じられました。

■ 今回のアーバントリップでは教育の抱える問題に対してTF\_面から向き合い、各々の設計者の一歩踏み込んだ新しい試みも多く見られました。おいしい食事もいただきながら刺激的な見学会に参加でき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

(河野 修 (株)横河建築設計事務所) Bulletin 2011年1月号より)